

地域日本語教室で使用する〈ボランティア初心者マニュアル〉の作成

渡会真由美 (ももちはま日本語クラブ)

➤ 課題の背景〔本研修の課題: ボランティア初心者マニュアルの作成〕

資格・経験・知識が無いボランティアが教室に加入した場合、国際交流財団の養成講座は年1回のため、基本的なことを学ぶ機会が少なく、またボランティアを始めてからは受講できない。加入後は、経験者が学習者支援の在り方を伝える機会が取れない。

◆**現在の問題点:** 上から目線・難しい言葉・一方的に話す・個人情報軽視・価値観の押しつけ

◇**解決策: ボランティア初心者マニュアルの作成**

⇒マニュアルを読み賛同の上参加・共有し自省・判断基準の明確化・人間関係のストレス軽減

☆**マニュアルの内容:** 教室概要・会則・ルール・ボランティアについて・やさしい日本語・外国人とのコミュニケーション・参考資料-参照枠/多文化共生/日本語教育の在り方/いづり・つなひろ・Cando の紹介

➤ これまでの取り組み

・2024年9月: 教室役員3名で意見交換・国際交流財団担当者と意見交換・ボランティア養成講座に参加し受講者と意見交換・凡人社関係者(講演者)よりアドバイスと『ボランティア手帖』からの引用承諾

・2024年10月: 教室役員3名で方向性の検討・ボランティア養成講座修了者と意見交換・当教室ボランティアにアンケート・しまね国際センター関係者(講演者)よりアドバイス・当教室のルール絞り込み

・2024年11月: 秋季研修にて中間報告/参加者と意見交換・北海道日本語センター関係者より『やさしい日本語ハンドブック』からの引用承諾

・2024年12月: 教室ボランティアで全体ミーティング(マニュアル使用の合意)

・2025年1月: 福岡市国際政策課担当者と意見交換・国際交流財団担当者と意見交換・教室役員3名で内容の最終確認・ボランティア全体ミーティングで完成したマニュアルの内容確認(導入の合意)

➤ これまでの取り組みを通して考えた点(マニュアル作成を決定するまでの経緯)

1. ボランティア初心者が加入した場合、国際交流財団の養成講座を紹介し、受講後に教室参加が良いのではと考えた。
2. 養成講座は年1回の開催で、ボランティアを始めてからは受講できないことが判明
3. 国際交流財団の養成講座をベースに、その簡易版が作成できないかと考えた。
4. 養成講座ではそれぞれの講師が独自の講義を行っており、総括して簡易版とすることは不可能と判明
5. 当教室独自のマニュアル作成を目指し、記載する内容について調査・検討・意見交換
6. マニュアル使用のメリット・デメリットを総合的に判断し、当クラブの総意として今後マニュアルを導入することを決定

➤ 取り組みの中で困難だった点

- ・ 当初、国際交流財団の養成講座をベースにしたいと考えたが叶わず、ボランティア初心者に伝えるべき内容の絞り込みが困難であった。
- ・ 文化庁及び文部科学省、福岡県/市/国際交流財団の日本語教育の方向性を反映させるべく、幅広い調査と自分自身の理解度を深める必要があった。
- ・ マニュアル作成にあたり、日本語教師と日本語教育支援員(ボランティア)の言語保障に対する責任

の違いを明確にする必要があったが、福岡市の既存の教室ではその差が無い場合が多く、当教室でも[日本語を教える・文型中心型]からの変更は困難である。

- ・ 秋季研修会で〈ボランティアは言語保障の責を負わないので、簡単なルールだけ決めて交流中心の場とした方がよい〉〈マニュアルがあることで、地域交流や社会貢献を目的に活動を始めた方への加入を遠ざけるのでは?〉とのご意見をいただいたが、福岡市/国際交流財団/当教室ボランティアに聞き取りをして、福岡市の現状ではマニュアルは必要と判断した。

➤ **コーディネーターとして果たした役割**

- ・ 既にコーディネーターとして活躍されている研修参加者が多い中、ボランティア主体の教室の立場からコーディネーターへの希望として意見を届けることができた。
- ・ 本研修を通じて日本語教育の方向性をより理解し、成果を当教室の運営に活かすと共に、マニュアルを媒体としボランティア全員に共有することができた。
- ・ 研修参加者の多様な意見と他の地域の現状を知れたことで、福岡市や当教室の課題を客観的に把握することができ、福岡市の日本語教育関係者へ課題解決のための前向きな提案ができた。
- ・ 国際交流財団担当者と〈各教室がつながりを持つための勉強会や意見交換の場を持つ機会〉について意見交換できた。
- ・ 福岡市国際政策課担当者と ①行政主体の日本語教室の拡充 ②ボランティア主体の教室での地域交流の活性化 ③地域日本語教室が今後果たすべき役割、について発展的な意見交換ができた。

➤ **地域日本語教育コーディネーターとして大切にしたい視点と今後の展望**

- ・ 日本語教師とボランティア双方の立場が理解できるので、コーディネーターとして学習者も含めてそれぞれの思いと到達目標に寄り添った視点を持ち続けたい。
- ・ 各教室や日本語教師・ボランティアは多くの共通の課題を抱えていることがわかったので、つながる機会を持ち、連携・協力して課題解決できるよう努めたい。
- ・ 日本語学習だけに留まらず、活動の場である公民館と連携して、外国人住民と対等な立場で認め合い、文化の交流ができるような機会を作っていきたい。
- ・ ボランティア主体の教室が日本語指導よりも交流中心の活動をするためには、行政や国際交流財団による言語保障の教室の数が全く足りていないので、地域に増やす活動を行っていききたい。
- ・ 外国人児童生徒の日本語力の不足を補い居場所を作る活動や、進路相談及び進学先を増やす取り組みを行っていききたい。
- ・ 地域の外国人・日本人住民に呼びかけ、他国の料理を一緒に作り、おしゃべりしながら食べる『グローバルキッチン』を開催する予定である。(前回は『グローバルカフェ』を実施)

➤ **研修の成果**

- ・ マニュアル導入の経緯と内容について発表し、他の受講者の教室で抱えている問題への対策に成り得るとの共感を多くいただいたので、導入後の教室の変化も機会があれば共有していきたい。
- ・ ボランティア運営で〈日本語を教えない活動中心の教室〉を目指すには現状課題が多いが、行政/国際交流財団/他の教室とのつながりを活かし、地域全体で多文化共生社会構築を目指したい。
- ・ 様々な日本語教育のフィールドで志を持って活動されている方々と共に受講できたことが最大の成果と考える。これからもこのつながりを大切に、皆さんのご活躍を励みに精進していく所存である。